

共同研究契約締結に関するご報告

2018年7月4日

弊社は、国立研究開発法人農業・食品産業総合研究機構様(農研機構)(久間 和生 理事長)と共に、現場での土壌モニタリングの採取を通じ、土壌が農業生産に及ぼす影響を定量的に評価し、全国の生産者様への的確な土壌管理指針のご提供を目指した共同研究に取り組みます。

作物を育む土の保全・改善に注力し、農耕機械を通して農家の皆様と共に土づくりに取り組ませて頂きながら、弊社は2017年に創業100年を迎えることができました。

弊社製品の最大の目的でございます物理性の改善は、化学性、微生物性と異なり、定量的に評価することが非常に困難であり、視覚的に判断できる指標として、全国各地の篤農家様の取組みを土壌モニタリングとして「土の館」で展示するに止まっておりました。

新たな100年に向け、農家様を含めた数多くの方々へ「土づくり」の大切さを実感して頂く方法を模索しておりました折、中国四国土を考える会の研修会を通して、農研機構 農業環境変動研究センター様と交流を持たせて頂きました。そして、農研機構様が国内土壌の体系化を目的に、土壌断面を「モニタリング」として採取され、適切な評価を行った上で「土壌インベントリー」として保管されておられますが、活動で得られた土壌インベントリー関連の研究成果、開発された技術の利活用、それらの社会実装について具体的な実効性に結び付ける手法について検討を重ねておられることを知るに至りました。

このような背景を踏まえ、土づくりに有効であると考えられている深耕に対する科学的根拠を、実際の土壌断面から評価する活動を共同で行い、双方が得た知見を基に、農家様に具体的な情報をご提供できる手法を構築し、その活動において採取された「土壌モニタリング」を農業環境インベントリー展示館(茨城県つくば市)と土の館(北海道上富良野市)に展示することで、作物の生産現場となる土壌の保全に対する理解を広め、持続可能な土壌管理指針の策定を目的に共同研究を行うこととなりました。

農研機構様と共に、土づくりをより身近に感じて頂ける取組を積極的に行って参りますので、ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。



農研機構 農業環境変動研究センター 所長 渡邊 朋也様(右)
スガノ農機株式会社 代表取締役社長 渡邊 信夫(左)



農業環境インベントリー展示館にて(左から神山領域長、大倉上級研究員、渡邊社長、広報室 川端)



土の館にて(左から品田専務、渡邊社長、大倉上級研究員、土の館館長 田村)

農研機構 農業環境変動研究センター : <http://www.naro.affrc.go.jp/niaes/>